

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北陸)	良くなる やや良くなる	通信会社（営業担当）	・新商品によってまとまった数の販売が見込めそうである。
		百貨店（営業担当）	・インバウンド客による高額品の買上は厳しいが、季節の切り替わりによって秋物商材がまずまず伸びてきている。目的があれば購入することから、トラベル需要が伸びる時期に入ったことで売上は伸びるものと考えている。
		コンビニ（店舗管理）	・ここ数か月は、前年度のプレミアム付商品券の効果との比較となり苦しい状況である。ここが過ぎれば少しは良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車の発表が来月に予定されており、事前営業の感触は良いので売上向上が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が発売され、問合せなども多く期待している。
		通信会社（職員）	・イベント開催に良い時期が控えており、集客イベントの企画や出店機会が多くなる。
		通信会社（役員）	・秋には、新型スマートフォンの発売や新サービスがスタートする。年末にかけて販売量が増えることを見込んでいる。
		通信会社（役員）	・テレビサービスにおいては、スマホ専用チャンネルの開設やVODサービス事業者の競合など多様化の傾向にあり、これが新たな視聴契約の開拓に結びついていくものと期待している。
	住宅販売会社（従業員）	・銀行の低金利が発表されて、客の動きに変化が出ると考える。	
	変わらない	商店街（代表者）	・高齢者の年金をあてにしている世帯が多いようである。生活費に充てるのがやっとならぬ、余計なものまで手が出せない。世間で言われている通り、貧富の差が出てきている。
		商店街（代表者）	・専門店の集まりである商店街では、安い物の販売は増加しているが本来の高級品の販売には結びつかない状況である。
		商店街（代表者）	・目新しい材料が少ない。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・最近では来客数が減ってきている。この秋には近辺に集客力のある大型商業施設がオープンし、それに伴って多少は来客数が増えると期待しているが、現在の来客数の減少傾向からあまり変わらないと考える。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・観光需要の影響がある業種は増えもせず減りもせず推移しているが、ほかの機械や設備、電気関係の業種の話の聞くと景気が良くなるようにはみえない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・年末商品の入荷が始まるが、新しいトレンドや目立った新製品がなく期待は持てない。
		百貨店（営業担当）	・ファッション関係では秋の新作が出てくる時期であるが、例年と比べて客の関心はあまりファッション商材には動いていない。どちらかというと暮らしや食関連といった日々の身の回りの物を優先して、ファッション関係や装飾品については財布のひもが固い客が多い。
		スーパー（店長）	・今後も、猛暑の反動や台風の状況により相場状況が見えない。特に農産物の高騰が考えられることから不安定な状況が続くものとする。
		スーパー（総務担当）	・最低賃金の引き上げが10月に行われるが、すぐに影響は出ないと見込んでいる。ほかに大きな変動要因が見当たらないことから横ばいと考える。
		スーパー（経営企画）	・大きな変動要因はなく、来客数は同じように推移すると見込んでいる。
		スーパー（店舗管理）	・競合店の出店後から来客数の回復の兆しがない。旧盆セールで勢いをつけたかったが、今年は去年の数値を確保できなかった。今後も客数確保は一段と厳しくなると考える。
コンビニ（経営者）		・これから気温の低下とともに売上が減少するのは間違いないが、例年どおりに推移するものと考えている。これを上回ったり下回ったりする要素は見当たらない。	
コンビニ（経営者）	・スーパーフードの飲み物などが順調に推移している。また、サラダや冷凍食品なども好調に推移しており、今の調子の良い状態はしばらく続くものとする。		
衣料品専門店（経営者）	・今年は初めて8月11日の山の日とお盆休暇の連続で長い夏休みになった。休暇が良い影響を及ぼした業種とそうでない業種に分かれている。来年から長い夏休みの対策が必要になると考える。		
家電量販店（店長）	・話題性のある家電が出ないと状況は変わってこない。		
乗用車販売店（役員）	・新型車の投入効果で当社では前年を超えている水準だが、業界全体としては前年並みである。		
自動車備品販売店（役員）	・明るい兆しや集客策が見えない状況である。単価や買上点数は下がっており見通しは暗い。		

住関連専門店（役員）	・従来であれば、冬場に入る前までに引き渡しを済ませる新築用や、婚礼用の住宅用品需要などで販売数量や単価が伸びる時期である。しかし、ここ数か月の動向からみて必要以上のものにまで出費しない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・現在が最低であるというところから変わらない。これ以上は悪くなってほしくない。
その他小売〔ショッピングセンター〕	・残暑が長引くと秋物衣料や住いの模様替え品、季節食材などの需要が減って売上に影響しそうである。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・昨年度の競合店オープンから1年経過したが、前年比の改善は想定を下回る。衣料品、飲食業種の落ち込みはやや改善したものの劇的に良くなる兆候はみられず、当面はこの状態が続く。
高級レストラン（スタッフ）	・個人客の利用が例年並みだったので、お盆期間や昼の営業も例年並みだった。法人利用は8月が最も少ない月だが例年と比べても伸び悩んだ。9月以降の法人受注も弱い状況である。
一般レストラン（店長）	・北陸新幹線開業以来、金沢への集中が一層と進み地域間の格差が広がっている。
観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は8月以降が前年比88%から78%で推移しており厳しい状況が続いている。
都市型ホテル（役員）	・宿泊部門は、急激な円高の影響によりインバウンド客の減少が危惧される。宴会部門はコンベンションや企業の周年事業などの大型の案件があるので全館では大きな変動はないと見込んでいる。
旅行代理店（所長）	・特に需要喚起につながるようなイベントがなく大きく変わる要因がない。
タクシー運転手	・9月は大きなイベントがあり、観光の予約が順調に入っている。
通信会社（営業担当）	・ボーナス商戦がようやく落ち着き、前年比で販売数に変化はなかった。同じ程度で推移していることから今後も変わらない見込みである。
競輪場（職員）	・年度当初から売上低迷が続いており、上昇に転じる要素が見当たらない。
美容室（経営者）	・ここ半年は、売上、来客数ともに前年をクリアするようにはなったが、大きく改善するだけの展望は持てない。
住宅販売会社（従業員）	・景気の改善が大企業から中小企業へ行き渡っていない現状では急激な改善は望めない。また、資材価格と人件費の上昇が考えられるため収益は楽観できない。
住宅販売会社（従業員）	・低金利によって客の動きが増えると期待していたが、思ったほど良くならなかった。割安な分譲住宅を検討するユーザーが少し動いた程度であり今後の販売量はあまり期待できない。
やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（店員） 百貨店（売場主任） スーパー（総務担当） 衣料品専門店（経営者） 一般レストラン（統括） 観光型旅館（経営者） 都市型ホテル（スタッフ） タクシー運転手 テーマパーク（役員） その他レジャー施設（総支配人）
	・客先に営業を仕掛けても、最低限の必要商品の購入でとどまっている。 ・例年以上に初秋物のアパレル関連の定価品の動きが弱く、2016年秋冬シーズンの苦戦が考えられる。 ・価格競争のために単価が下がりデフレ傾向が強まって景気は良くならない。 ・衣料品に関しては底打ち感がない。メーカーでは生産調整をしているところが多く、結果として小売店の売上は減少傾向が止まらない。 ・景気が良いというメディア報道は1つも無い。逆にデフレの文字が少し目立つようになったためか、平日夜の来客数は若干の減少傾向にある。 ・北陸新幹線開業効果が落ち着き、今年はふるさと旅行券がないことや連休の日並びなどを考慮すると9～10月ともに10%ほど売上が減少する見込みである。 ・円高の影響でインバウンド客の減少が懸念される。円高なのに輸入食材の価格は下がりず収益を圧迫しており、値上げが出来る環境にないため収益が回復する要素がない。 ・先行きが良くない一番の理由は観光客が減少していることである。週末は人出があっても平日は落ち込んでおり回復しないのではないかと考える。 ・前年は北陸新幹線開業に伴って10～12月にかけて大型の様々なキャンペーンが開催されて誘客につながった。今年はその反動もあって、前年同月と比べると予約状況は悪くなっている。特に団体客の動きが顕著である。 ・低単価の全国チェーンの競合施設が今秋にオープンする。会員を奪われることは必至である。

		住宅販売会社（従業員）	・毎月の受注契約金額が計画に対して未達が続いており、今まで積み上げてきた受注累計残高は前年比プラスを維持しているものの、増加率では下降している。今後の展示場来場者数が回復するかが鍵であるが見通しは暗い。
	悪くなる	コンビニ（店長）	・客の様子から無駄な買物が減っていると感じる。1日に何度も利用する客の来店頻度が減り、昼の弁当などの単価が減少するなど、以前の景気の悪かったときの売行きと同じように感じる。アイスクリームなど、気温の上昇で売上が伸びる季節商品が売れていないため、この傾向が続くかと不安である。
		スナック（経営者）	・国内外を問わず問題が起きるのではないかとこの心配があり、最悪の状況も懸念される。
企業 動向 関連  (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	プラスチック製品製造業（企画担当）	・車載資材を中心に受注は堅調である。
		通信業（営業担当）	・通信関連の商品は製造業を中心に需要がある。地域によって差がみられ、観光需要が良い地域であっても通信の設備投資にまで発展しない傾向がみられる。
		司法書士	・地価や住宅ローンの金利について、今が底であると考える人が多く、今後は不動産が動くのではないかと考えている。
		税理士（所長）	・8月現在は厳しい状況にあるが、取引先の経営者の今後の見通しによると製造業では延期になった受注案件が入ってくる予定とのことである。公共工事関係もこれから発注がどんどん増えてくると聞いている。絶対量が増えるとは言えないが少なくとも今の状況よりは良くなるのではないかと考える。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・下期に向けて受注量が戻ることに期待したいが、円高で輸出が影響を受けている上に国内市場も動きが鈍いことを懸念している。
		繊維工業（経営者）	・やはり衣料関係は為替の状況に左右される。来春向けのものについては期待をしている。
		化学工業（総務担当）	・売上が順調でこのまま推移していく見込みである。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の注文の入り具合を見て、変わらないと判断した。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・国内市場は依然として低調に推移しているものの、熊本地震の影響により休業していた大手メーカーがほぼ復旧してきており今後の受注回復に期待している。
	精密機械器具製造業（役員）	・ここ数か月に比べればプラス材料の期待はあるものの、為替の動きも含めて不安要素が多すぎる状態であり、決して楽観視はできない。	
	建設業（経営者）	・上期9月までの公共事業の発注に期待したいところだが状況が見通せない。	
	輸送業（配車担当）	・今後しばらくは現在の状況で推移していくと考えている。	
	金融業（融資担当）	・取引先の小売業の売上不振などから察するに個人消費の伸びは当面は期待できず景気浮揚材料が乏しい。	
	不動産業（経営者）	・法人、個人の事業者からの情報がかなり減ってきたことから変わらない。	
	やや悪くなる	食料品製造業（役員）	・景況感には大きな変化がなく、今後3か月も同様の傾向であると考えている。円高により原材料価格が下がってきているが、収益面ではあまり変化がない見込みである。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・米国市場は、9月に世界3大工作機械見本市が開催されるので受注が期待できる。しかし、欧州市場では英国のEU離脱問題の影響によって設備投資に対する不安がある。
		建設業（役員）	・当地域では特に受注価格競争が拡大する傾向で、今後さらに競争激化が続く見通しである。
		輸送業（配車担当）	・輸送コストの燃料費がじわじわと高騰していることと、前年と比べて売上が落ちている傾向がみられる。
		金融業（融資担当）	・秋から冬に向けてイベントが少なく観光客増加のカンフル剤は少ない。また、10月の県知事選を迎えて公共投資を出しづらい状況が見込まれる。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・参議院選挙、リオオリンピックと大きなイベント中はチラシの出稿が停滞する。終了後には回復してくるだろうと見込んでいたが、一向に回復の気配が見えてこない状況である。回復のきっかけが見られず今後も期待できない。
	悪くなる	-	-
雇用 関連  (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・3か月先までのスポットや短期の求人の引き合い案件が多くみられる。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・依然として派遣登録者数が増えない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用の話がない。

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・ 募集職種にあまり変化がなく、求人の状況は全体として大きく変わっているようにはみられない。この後もすぐに大きな変化はないと考える。
	職業安定所 ( 職員 )	・ 新規求人数が前年同月を下回る業種がみられるなど全体としては一進一退が続くと考える。
	民間職業紹介機関 ( 経営者 )	・ 求職者が増えてこないと就業マッチングが難しい。人材の確保が一番の課題になっている。
	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	・ 円高の影響によって今後の国内企業の設備投資がどのように進むか判断が難しいものの、現状では、少子化などで人材不足の背景もあり求人の増加は続くものとみられる。
やや悪くなる	職業安定所 ( 職員 )	・ 依然として円高の影響を不安視している事業所が多い。
悪くなる	-	-